

芸大院生が工房体験

公共美術の可能性探る

熱海 陶板など制作

公共空間や建築に飾られるパブリックアートを専門に制作する熱海市泉の「クレアーレ熱海ゆがわら工房」で13日、東京芸術大大学院「壁画研究室」の学生10人が実習授業に取り組んだ。17日まで、ステンドグラスと陶板の制作を体験する。



学生は、公共空間に調和した芸術の在り方について、工房を見学しながら学んだ。実習では宮城県に施設に設置予定の、大きさ22平方メートルのステンドグラス制作に挑戦。木の葉をモチーフにした作品で、特殊なカッターを使い、デザイン原画の型紙に沿ってガラスを切り取る作業に携わる。

陶器制作の技術を応用し造形作品を形作る陶板の実習では、作品のひな型作りを体験。修士

陶板作品の制作現場を見学する東京芸術大大学院生
 熱海市泉のクレアーレ熱海ゆがわら工房

課程2年の水永阿里紗さんは「人とコミュニケーションを取りながら（空間との調和を求めらる）制約の中で行う制作に、どんな可能性があるのか知りたい」と意気込む。同工房は今後、教育施設を併設し、芸大生が単位を取れる講習を開く構想を持つ。今回はその試行も兼ね、初めて芸大の実習を受け入れた。